

# 社会福祉法人宇治田原むく福祉会 令和6年度事業報告書

## 1】全体総括

令和6年度は、医療、介護、障害の3分野同時の報酬改定が実施されました。

障害福祉分野では、全体で+1.12%の改定率となり、福祉人材確保の観点から、福祉介護職員の処遇改善加算として、2.5%程度の給与のベースアップが図られるようにとの措置が取られました。

一方で、各障害福祉サービスの報酬や基準の大幅な見直しが実施され、サービスの質に応じたメリハリのある報酬改定を行うこととされ、これまで以上に、サービスの質の確保と向上が求められることとなりました。

これらの状況を踏まえ、サービス事業ごとに、新たな基準や制度の見直しに対応すべく、専門職の配置、事業ごとの職員配置の見直し、利用率の毎月の進捗管理等を実施することで、全体として、事業収益が減収となることなく、サービス収益については前年比約30%の増収となりました。

また、職員の処遇改善については、毎月の給与への処遇改善手当の増額を行い、人件費については全体で前年比約10%のアップとなりました。

## 2】今年度の重点課題の評価と課題

令和6年度は、以下の点を重点課題として取り組みを進めました。それぞれの評価と課題については次の通りです。

### 1、経営の取り組み

- (1) 新たな管理職体制の構築
- (2) 職員組織全体のガバナンスの強化
- (3) 健全で安定的な財政基盤の確立
- (4) 職員のコンプライアンスの遵守意識の向上

施設長、地域生活支援部長、通所支援部部長、事務局長を管理職として位置づけ、法人の事業運営管理、人事考課、職員の指導育成などを主な役割とし、法人の事業方針の推進と浸透に努めました。

毎月管理職会議を実施することにより、事業の課題の共有とそれに対する対策への迅速な取り組みが可能となりました。また、毎月の収支決算を確認することで、各事業の稼働状況が可視化され、早期の対策が実施でき、財政的には年間を通じて堅調に推移しました。

また、管理体制が明確にされたことにより、組織全体のガバナンスが強化されたといえますが、今後は、さらに職員個々の役割の明確化と責任意識の向上が期待されます。

一方コンプライアンスについては、虐待防止研修や緊急時対応、感染症対策等の研修を通して、法令遵守意識が浸透したと評価しています。

## 2、利用者支援の取り組み

- (1) 専門的支援の展開と充実
- (2) 清潔で安心安全な環境整備
- (3) 人権尊重意識の徹底

利用者支援の取り組みとしては、昨年度に引き続き「利用者の笑顔をつくる」をスローガンとして掲げ、利用者のウェルビーイングの追求を柱とした「支援の方針（支援マニュアル）」を作成し年度当初に説明し周知しました。

その中で、生活環境の整備の徹底、人権尊重意識の向上、専門的支援の充実についての具体的な方策を示し、全職員で取り組みを進めました。

これらの取り組みを通して、利用者の豊かな生活を実現しようとする、職員の意識の向上がみられました。

## 3、人材育成の取り組み

- (1) キャリアパス制度に基づく人事考課制度の見直し
- (2) 職員研修の充実
- (3) 計画性のある人材採用計画の作成と実施

職員が、やりがいをもって仕事に取り組めることをめざして、人事考課、職員研修を計画的に実施しました。人事考課については、年2回の個別面談を実施し、半年ごとの職員各々の仕事についての振り返りと、目標達成への進捗や課題などの確認を行いました。また、職員研修については、内部研修として、各部署の実践報告会を行うことで、違う部署の支援の状況を理解することができ、日々の仕事へのモチベーションを高める良い機会となりました。

今年度の職員研修の内容は以下の通りです。

令和6年度職員研修実施一覧（内部研修）

月	研修内容	分類	講師
6月	ガバナンス強化研修（稟議書の書き方）	ガバナンス研修	事務局長
7月	食中毒感染症・てんかん発作の対応について	法定研修	看護師
9月	身体拘束適正化研修	法定研修	虐待防止委員会
10月	実践報告会 ① 自閉症の利用者への作業支援の事例 ② ウェルビーイングをめざした就労支援の事例 ③ 一人暮らしを支える居宅支援の事例 ④ 5領域での児童支援について ⑤ 医療・福祉の連携づくりの具体例について	資質向上	①生活支援部 ②就労支援部 ③居宅支援部 ④児童支援部 ⑤相談支援 入所支援部
11月	感染症対策（標準予防と感染経路別予防策） 口腔ケアの重要性について	法定研修	看護師 言語聴覚士
12月	安全運転管理研修	法定研修	交通安全管理者
2月	身体拘束について学ぶ（グループワーク）	法定研修	身体拘束適正化 委員会
	BCP研修（BCPとは）	法定研修	BCP作成委員会

令和6年度職員研修実施一覧（外部研修）

月	研修内容	受講者
7	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	生活支援員 1名
8	相談支援従事者初任者研修	生活支援員 1名
8	サービス管理責任者基礎研修	生活支援員 1名
8	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	居宅支援 ヘルパー1名
8	喀痰吸引等研修「（第3号研修）」	居宅支援 ヘルパー1名
10	高齢者雇用促進セミナー	事務局長
11	食品衛生責任者実務講習	生活支援員（就労） 1名
12	サービス管理責任者実践研修	生活支援員 1名
R7, 1	社会福祉法人役員施設長等運営管理職員研修	事務局長

## 3]各事業の総括

### (1) 法人本部

#### 1. 理事会・評議員会の状況

---

理事会、評議員会の運営事務については予定通り実施した。

今年度は、理事及び監事の改選の年であり、滞りなく改選の事務手続きを行うことができた。

開催内容については以下の通り。

##### 《第1回理事会》

ア期 日：令和6年5月26日（日）10：00～12：00

イ議決事項：第1号議案 令和4年度事業報告の件

第2号議案 令和4年度決算の件

第3号議案 経理規程改正の件

第4号議案 定款変更の件

第5号議案 定時評議員会の日時・議案等の件

報告事項 理事長及び業務執行理事の職務の報告

##### 《第2回理事会》

ア期 日：令和6年12月15日（日）13：30～14：00

イ議決事項：第1号議案 令和6年度補正予算の件

##### 《第3回理事会》

ア期 日：令和7年3月16日（日）10：00～12：00

イ議決事項：第1号議案 令和7年事業計画（案）の件

第2号議案 令和7年度予算（案）の

第3号議案 経理規程及び経理規程細則改正の件

##### 《第1回定時評議員会》

ア日 時：令和6年6月16日（日）10：00～12：00

イ議決事項：第1号議案 令和5年度決算の件

第2号議案 経理規程改正の件

第3号議案 定款変更の件

ウ報告事項：令和5年度事業報告の件

## 2. 経理・財務管理

毎月の会計処理の状況の確認と年度末の決算処理については、法人事務局で経理処理し、会計事務所に確認作業を依頼した。

毎月確実に月次報告書を作成し、理事長に報告するとともに、管理職会議で財務状況の確認と対策を検討した。年間を通して、確実な予実管理及び正確な経理処理を行うことができた。

## 3. 人事労務

職員の人事労務管理については、引き続き、社会保険労務士に業務委託契約をし、毎月一回の訪問を受けながら、職員勤怠管理、各種労務関係手続や届け出等、適正に処理することができた。職員の異動については以下の通り。

### 【採用】

退職年月	性別	職種	雇用形態
令和6年7月	女	看護師	非常勤
令和6年9月	女	生活支援員	常勤
令和6年9月	女	生活支援員	非常勤
令和6年9月	女	生活支援員	非常勤
令和6年9月	女	生活支援員	非常勤
令和6年10月	男	生活支援員	常勤
令和6年11月	男	生活支援員	常勤
令和6年12月	女	生活支援員	常勤
令和7年2月	女	訪問支援員	非常勤
令和7年3月	女	看護師	非常勤

### 【退職】

退職年月	性別	職種	雇用形態
令和6年5月	男	生活支援員	常勤
令和6年8月	女	生活支援員	常勤
令和6年11月	女	生活支援員	非常勤
令和6年12月	男	生活支援員	常勤
令和7年3月	女	生活支援員	非常勤

#### 4. 福利厚生

職員の健康管理及び福利厚生のため、生活習慣病健診（政府管掌）を希望する職員対象に実施した。また職員のリスクマネジメントとして、業務災害、傷害保険、損害賠償保険等については、引き続き契約を行った。

#### 5. 施設管理・安全管理

ケアホームむくの家、さくらの家のエレベーターのメンテナンス工事を実施したほか、利用者の居室のエアコンの入れ替え工事を順次実施した。

また、送迎車両については、メンテナンス月のリース契約に順次切り替えたことにより、計画的にメンテナンスが実施できるようになった。

### (2) 通所支援部

#### 1. 生活介護・就労継続支援 B 型（多機能型）事業の概況

昨年度に引き続き「利用者の笑顔を創り出す」ということを支援の目的とし、昨年度定めた「支援の方針」を、さらにその内容をブラッシュアップすることをめざした。

それぞれの事業の内容は以下の通り。

##### 1) 障害福祉サービスセンター「うじたわら」

##### ア. 生活介護事業（定員 25 名）

令和 6 年度は支援学校の卒業生が 3 名、他事業所からの移行が 1 名、入所施設から 1 名、他事業所から 1 名の計 6 名の新規受け入れを行った。

利用者の障害特性に合わせ、作業活動を中心にするグループと機能訓練や身体介助などの生活支援を中心にするグループなど、3 グループに分かれて、日中活動を提供した。

作業活動では、職員の支援の工夫や、環境統制への配慮等によって、利用者の作業能力の向上が見られた。それによって生産量が上がり、工賃の向上につながった。

##### 【年齢層別利用者数】

令和 6 年 4 月現在

年齢層	60代	50代	40代	30代	20代	10代	計
利用者数	1	5	5	9	12	4	36

##### 【障害支援区分別利用者数】

令和 6 年 4 月現在

支援区分	6	5	4	3	2	1	計
利用者数	10	14	11	1	0	0	36

【グループ編成】

班	障害特性	主なプログラム		利用者数
		午前	午後	
りんくる班	高齢・重度の障害があり、身体介助を要する方	体操・機能訓練	作業活動 入浴等	14名
りーふ班	作業能力はあるが、環境や支援に特別な配慮を要する方	作業活動	作業活動	8名
れつつ班	作業能力があり、比較的安定して作業に取り組める方	作業活動	作業活動	14名

イ. 就労継続支援 B 型事業（定員 15 名）

今年度は、12月に他の事業所から移行の利用者1名の受け入れを行った。

主な活動内容としては、昨年度に引き続き、農作物の栽培、販売、飲食店（うどん店）の経営、パン・クッキーの製造販売、柿酢の製造販売などに取り組んだ。

比較的重度の利用者が多い中、様々な支援の工夫を行うことで、作業能力や仕事への意欲の向上、また、利用者個々が主体的に作業に取り組む姿勢などが培われてきている。

就労支援事業全体の収益としては、前年度と比べて約98万円の増収となり、41,214円となりました。

【年齢層別利用者数】

令和5年3月末現在

年齢層	60代	50代	40代	30代	20代	10代	計
利用者数	1	2	2	5	7	2	19

【障害支援区分別利用者数】

令和5年3月末現在

支援区分	6	5	4	3	2	非該当	計
利用者数	0	0	11	2	4	2	19

【就労継続支援 B 型グループ編成】

グループ名	主な作業内容	支援目標	利用者数
農作業班	野菜の栽培・販売	農業や菓子、パンの生産技術の習得 就労意欲の向上 自主性・社会性の育成	11名
加工班	菓子・パンの製造 柿酢の製造・販売		5名
飲食班	うどん店の経営		3名

## ウ. 主な年間行事等

障害福祉サービスセンターうじたわらとして取り組んだ年間の主な行事は以下の通りです。

### 【主な行事】

月	内 容	概 要
4月	入所式	新入所者を迎え入所を祝う式を実施
9月	日帰りバスツアー	4グループに分かれ、日帰りでバスツアーを実施
11月	れつつまつり	事業所全体で、日頃のクラブ活動の成果の発表や販売活動を実施
12月	年末お楽しみ会	生活介護、就労支援それぞれで会食をし、ゲーム大会を実施
1月	成人を祝う会	成人を迎える利用者を祝う会を実施

## (3) 地域生活支援部

### 1. 放課後等デイサービス・児童発達支援（多機能型）事業の状況

定員 10 名の児童発達支援と児童デイサービスの多機能型として事業を実施した。  
今年度から、支援時間に応じた基本報酬の設定、5 領域（健康・生活/運動・感覚/認知・行動/言語・コミュニケーション/人間関係・社会性）に応じた支援の明確化など、新たな制度が導入されることとなった。

当事業所では、これらの改定に応じて、個々の支援時間の個別支援計画書への明記、5 領域に対応するプログラムの構築などに取り組んだ。

#### 1) 児童デイサービスにじいろ

##### ア. 児童発達支援 定員 2 名

年度当初から、1 名の利用があったが、転居により利用終了となり、令和 7 年 1 月からの利用児童はいない状況となった。

#### 【年間延べ利用者数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
述べ利用数	3	7	7	5	0	7	9	8	5	0	0	0

#### イ. 放課後デイサービス 定員 8 名

今年度の契約児童数は 29 人となった。各々の児童の利用回数は、おおよそ週 2 回から 5 回程度となっている。一日の利用児童数は平均して 12.5 人であった。

【利用状況】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
のべ利用者数	255	265	249	279	236	255	289	258	242	254	231	265	3078
開所日数	21	21	20	23	17	21	22	20	22	19	18	21	245
契約児童数	27	27	27	28	28	29	29	29	29	29	29	29	
平均利用者数	12.1	12.6	12.4	12.1	13.8	12.1	13.1	12.9	12.0	13.3	12.8	12.6	12.5

2. 共同生活援助事業の状況

昨年度と同様、ケアホームむくの家・ケアホームさくらの家・グループホームくるみの家の3つの事業所の運営を継続して行った。

さくらの家については、入居者の入れ替わりはなく定員通りの利用となった。

むくの家は、定員10名のところ昨年度末は9名の利用となっていたが、今年度4月に1名の入居があり、定員通り10名の利用者となった。

くるみの家については、緊急性の高い入居希望があったため、10月に短期入所用の居室を1室入居用に切り替える形で、1名の定員増を行い、入居者は7名となった。

【利用状況】

1) ケアホームむくの家（むくの家・さくらの家）

（むくの家） 定員10名（男性） (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
区分4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
区分5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
区分6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

（さくらの家） 定員5名（女性） (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
区分5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
区分6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

## 2) グループホームくるみの家 (定員 7 名)

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分 3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
区分 4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
区分 5	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
区分 6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7

## 3. 短期入所事業の状況

今年度当初は、ケアホームむくの家に 1 床、さくらの家に 1 床、グループホームくるみの家に 2 床の計 4 床で事業を開始したが、10 月からくるみの家の定員を 1 名に減少した。短期入所が 1 床減少したことで利用を断るケースはなく、3 床の短期入所で充分対応できる結果となった。

## 【利用状況】

## 1) ショートステイむくの家 (定員 2 名)

※開所日数＝一か月の日数×定員

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
のべ利用者数	90	91	106	115	100	110	82	77	74	68	70	77
開所日数	60	62	60	62	62	60	31	30	31	31	28	31
平均利用者数 (一日あたり)	1.5	1.4	1.7	1.8	1.6	1.8	2.6	2.5	2.3	2.1	2.5	2.4

## 2) ショートステイくるみの家 (定員 2 名) ※10 月より定員 1 名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
のべ利用者数	23	25	22	23	24	23	24	32	22	31	19	22
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数 (一日あたり)	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	1.0	0.7	1.0	0.6	0.7

## 4. 居宅支援事業の状況

居宅支援（家事援助・通院介助）については、今年度の利用対象者は 17 人となり、前年度の 16 人から 1 人増え、行動援護については、今年度の利用対象者は 9 名で、昨年度からの増減はなかった。

いずれも、一日あたりの利用者数で見ると、2人～3人となっており、支援の効率化について課題が残った。

【利用状況】

1) らぼらいふ（家事援助・通院介助）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
のべ利用件数	60	62	58	82	70	72	74	63	75	70	70	72
実利用者数	11	12	12	12	14	12	12	12	13	14	14	12

2) らぼらいふ（行動援護）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
のべ利用件数	66	70	61	74	55	63	66	59	66	56	60	64
実利用者数	7	7	7	7	7	9	9	8	9	8	9	9

5. 相談支援事業の状況

計画相談及びモニタリング報告の取り扱い件数は以下の通りで、障害児、障害者ともに前年度と比べて大きな差はなかった。

また、宇治田原町自立支援協議会への参画も積極的に行い、今年度3回の会議に出席し、事例検討の資料提供などを行った。

1) サポートことのは

【計画作成・モニタリング件数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画作成（者）	3	2	15	4	9	9	5	5	2	3	5	16
モニタリング（者）	9	8	20	8	12	22	13	10	23	8	12	24
計画作成（児）	0	0	4	2	2	0	1	2	0	1	1	18
モニタリング（児）	1	5	4	11	4	6	1	2	1	13	3	5

（4）その他の事業

1. 地域生活支援事業の状況

1) 日中一時支援事業

宇治田原町、井手町、宇治市、京田辺市、城陽市の5市町から委託を受けて、障害福祉サービスセンターうじたわらにおいて実施した。

主に保護者のレスパイト目的としての利用が主であった。

年間を通して、毎日1名程度の利用があった。

## 2) 相談支援事業

昨年に引き続き、宇治田原町からの委託を受け、主に相談支援事業所「サポートことのは」において実施した。

また、宇治田原町自立支援協議会への参画も積極的に行い、今年度3回の会議に出席し、事例検討の資料提供などを行った。

## 3) 移動支援

宇治田原町、井手町、宇治市、京田辺市、城陽市の5市町から委託を受けて実施した。居宅支援事業所である「らぼらいふ」でサービス提供を行った。

年間を通して、毎月10件~20件の利用があった。